◆東京藝術大学特別講座（DOOR）第５回目

１年生　令和５年 10 月 24 日(火)
２年生　令和５年 10 月 26 日(木)

| | |
|---|---|
| 演題 | まちの風景をつくる人びと |
| 講師 | **馬場　拓也（ばば　たくや）氏**<br>社会福祉法人愛川舜寿会理事長／洗濯文化研究所代表<br>・1976 年神奈川県生まれ。<br>・日本社会事業大学大学院福祉マネジメント修士課程修了。<br>・大学卒業後イタリアのファッションブランド「ジョルジオアルマーニ」にてトップセールスとして活躍した後、2010 年に 2 代目経営者として現法人に参画。<br>・これまでに、空間から人と人の社会的距離を再考し、介護施設の庭を地域に開放する「ミノワ座ガーデン」、居室のプライバシーを改善する「ミノワセパレイ戸」を建築家、造園家。大学生らと共に実践。<br>・2017 年より公民館にて市民の語り場「あいかわ暮らすラボ」を運営。<br>・2019 年に障がいのあるなしによらず共に過ごすインクルーシブ保育「カミヤト凸凹保育園＋凸凹文化教室」を開園。<br>・2022 年には地域共生文化拠点「春日台センターセンター」を開設。洗濯事業「洗濯文化研究所」を開設。 |

◆◆受講後の学生の感想◆◆

１年　①

今回の講義を聞いて、福祉施設のことを馬場先生は「小さな箱」と言い換えられており、先生はもっと視野を広げて、隔たりをなくしたいという気持ちをもっておられるように感じた。だから、人がよく通るところに「春日台センターセンター」を建て、多くの人が出会い、関われるように取り組まれたのだと思った。

また、町や地域のために行動したいと思ったときに、「地域中心に」という意識をもつことはあたりまえであるが、忘れやすいことだと私は思った。本当に必要なことを事業者中心に考えるのではなく、地域中心で考えることが大切であることを改めて理解できた。

１年　②

地域と共生するため（社会をやさしくする/受容してもらうため）には、情報を開示することが必要だという発想と試みに感銘を受けた。現代は安全やプライバシーを守ることが重視されるが、壁を壊したり、柵の隙間を広げたりすることで、良い効果が生まれているということが、より多くの人に知られれば良いと感じた。

地域の問題を包括・解決する施設をつくり、交流が生まれる場としていることが素晴らしいと思う。何か一種類でなく年齢・障害・国籍という数種の個性を共生させようとしているロールモデルははじめてみたため大変興味深かった。

１年　③

デザインは人々に感情や理解・行動をもたらしているということを知ることができました。「共生」多様性を認め合う「自律」“個”を尊重する、「寛容」許し受け入れる、この３

つの理念を頭に入れて生活していこうと思うことができました。
　今回の講義の中で特に心に残ったことは「インクルーシブ保育」のお話です。分離保育や統合保育とは違って“違ってあたりまえ”という前提に立って、ともに育つ保育を目指すということが、時代の変化やよりよい社会に変化しているなと感じることができました。

1年　④
　今回の講義を聞いて、様々な人種や様々な障がいを持つ人が共存する中で、大切なことは隔たりをなくし、全ての人が尊重される世の中にすることだと思いました。多くの人の対話を通して、どうすれば全ての人が過ごしやすい環境になるのかを考えることで差別などが減ると思います。
　また、地域の人と関わることのできる保育園や地域の問題を明確化し、それを改善できるように春日台センターセンターを作るなど、人と人との関わる場を増やすことで、人々に元気を与えたり、高齢者や障がいを持つ人が孤独感を感じることがなくなり、よりよいコミュニティーを形成することにつながっていると思います。
　私の住む地域にも高齢者が多くいらっしゃるので、積極的にコミュニケーションをとり、助け合いながら生活することでもっと活気づくと思うので、今回学んだことを活かしていきたいです。

1年　⑤
　社会資源は、行政とかの物的資源しか考えていなかったが、保育園児と高齢者が互いに良い影響を受けている話を聞いて、人も社会資源になれるのだと気づかされた。ミノワホームの施設と地域を隔てる壁や、消えてしまった商店のベンチのように、地域の人が触れ合える場所の減少が、今の個人主体の社会を作ってしまった一つなのかと思った。建物の間に抜け道があったり、自然に地域と共生できるという所がすごいし、福祉をまちの風景にするという日々の暮らしをしていくだけで、人的な社会的資源を得られるような仕組みが日本で広がっていけば良いと感じたし、私自身も社会的資源になれるよう意識しようと思った。

1年　⑥
　今回の講義で、高齢化が進行しているところで福祉を町の風景にしようという取り組みがあることを知った。天草も講義に出てきた地域と同じように高齢化が進行している。天草でも活かせることがあるのではないかと感じた。
　高齢者や障がい者という単語だけで聞くと、多くの人はマイナスの感情を抱きがちだと私は思う。そのような人と関わる中で先入観に影響されることなく、社会で生きる人が支え合うことが大切だと思う。様々な活動を行うことで町の人に良い影響が出ていてすごいと思った。

2年　①

福祉と地域をかけ合わせて地域を盛り上げているということが分かった。２割の人は働いて、あと２割の人は働かない、残り６割はどちらでもいい人という考え方があるように、人と分かり合うのは難しいので徐々に新しい動きを進めていくことが大切だった。取り組みを１つだけに絞るのではなく、何かとかけ合わせることで更に多くの問題もいっしょに解決していけると考え、行動をされているのが、馬場さんのすごいところだと感じた。

2年　②

高齢者は子どもにとっての社会資源であり、まさえさんという高齢者もメイクをしたりして、相互作用があるんだなと思いました。

また、街の中に様々な人が利用できる福祉施設を作ることで、交流が増えコミュニティが広がると思いました。施設のつくり方も工夫されており、地域の人の声を取り入れて建設に至っており、だからこそ、たくさんの人に利用される施設になったのだと思いました。天草にも高齢者が多く、小学生や中学生も多いので、そういった施設ができると、人と人との繋がりが更に増えるのではないかと聞いて思いました。

2年　③

相模原障がい者施設１９人殺傷事件（２６人重軽傷）から反発が起きており、施設と地域の間にある壁（隔たり）を壊し、皆が来れるような庭づくりをしたということが心に残りました。

凸凹保育園で「誰しもが持つ凸に注目し、誰しもが持つ凹をみんなで埋め合う」という言葉が良いと思いました。その中で、おばさんの化粧が変わってきたという話がおもしろかったです。様々な人々が集まりやすい場所ができる（ある）ということは、素晴らしいことで大切なことだと思いました。

2年　④

ケアとは「時間をあげる」こと。誰でも自然な心の持ち方として、本当に好きな人とは時間をともに過ごすことを厭わない一方、そうではない人とは極力時間を一緒に過ごすことを避けようとする。このようなことを考えると「ケア」とはその人に「時間をあげる」ことである。と言ってよいような性格をもっている。あるいはその人と「ともに時間を過ごすこと」自体がひとつのケアである、と考えてもよいように思われる。というスライドから、看護のケアとはまた異なったケアを新しく知ることができました。

誰かと一緒に過ごせる環境や時間、機会をつくることもケアであるんだなと感じました。

2年　⑤

大切にしている３つの理念に「共生」「寛容」「自律」があることがわかりました。また、自立にしていない訳があることが分かりました。専門外だから見て見ぬふりをするのではなく、広く見て子ども・高齢者・障がい者＋社会的な弱者等地域の皆をケアの対象として

見てみると良いことが分かりました。

子どもたちと高齢者の関わりや握手ができるような工夫がされている施設等、人と人との繋がり、地域との繋がりを本当に大切にしていると感じました。

“福祉”をまちの風景にするという考え方がこのような事業をどんどん全国に広めていき、よりよい地域になっていってほしいと感じました。

初めにプロフィールを見てなぜ「洗濯」なのか不思議だったけど、共働きやシングルマザー、シングルファーザー等のことを考えての事業だったので良い事業だと思いました。

2年　⑥

馬場さんが考えている理念にすごく共感した。今の世の中は、ジェンダーや障がいに関して色々な問題がある。この問題を少しでも良くするためには、馬場さんの理念の中にある多様性を認め合うことが大事であることが分かった。

インクルーシブ保育とは、障がい者にかかわらず、一人ひとりがユニークな存在であり、違って当たり前という前提に立ち、ともに保育を目指してある保育園があることを初めて知った。

今後の実習や将来で今回学んだ馬場さんの考えている理念は、すごく大事であるなと思った。やっぱり対象の「個」の尊重をすることや寛容することや、その人らしい生き方を認めるということが大事であり、今後も大切にするべき目標・理念であることが分かった。